

施策評価シート

施策等名称	文化芸術を活用したまちづくり	体系番号	0201020304
		主管課	生涯学習課

1 施策基本情報

現状と課題	茅野市では国宝土偶「縄文のビーナス」「仮面の女神」に代表される「縄文」を活かしたまちづくりを進め、地域の歴史的魅力や特色を国内外へ積極的に発信するとともに、関係団体との連携を図り、まちの賑わい創出や地域活性化に取り組んでいます。また、文化芸術が持つ創造性を地域の様々な課題解決の手段として活用する動きが注されていることから、伝統的な祭りや文化財・芸術作品の展示、映画祭、アートプロジェクト、イベント等といった地域の文化資源や文化芸術活動を産業・観光・福祉などの分野で活用し、地域の新たな魅力やブランドを創出する取組が必要とされています。
めざす将来像 (あるべき姿、基本的な考え方)	文化芸術を様々な分野に活かし、賑わいや交流を生む取組を進めます。

施策指標	指標名称	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値	
				2022年度目標値	2027年度目標値
①	尖石縄文考古館来館者数	人	53,824	60,000	70,000
②	「茅野ブランドの創出」の取組に対する市民満足度	%	20.00	25.00	30.00
③					

施策の柱 1	名称	文化芸術を活用したまちづくりの推進		主管課	文化財課・地域創生課		
	詳細	地域の伝統文化、文化芸術活動を活用し、地域振興につなげる取組を推進します。					
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
	1	尖石縄文まつり入場者数	縄文まつり来場者数(人)	3,800	4,000	1 尖石縄文まつり事業(関係団体支援等事業費の内)	実施
					4,000	2 ハケ岳JOMONライフフェスティバル事業(縄文プロジェクト推進事業費の内)	実施
	2	ハケ岳JOMONライフフェスティバル来場者数(3年毎)	ハケ岳JOMONライフフェスティバル来場者数(人)	29,425	32,000	3	
					36,000	4	
	3					5	
						6	
	基本政策間連携						

施策の体系	名称	産業・観光分野における文化芸術の活用		主管課	観光課・商工課		
	詳細	滞在・交流型観光プログラムにおける地域の伝統文化や文化芸術活動の活用を推進します。					
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
	1	地域資源を活用した旅行商品の開発	推進機構が造成する独自旅行商品の累計数(件)	0	50	1 観光まちづくり推進事業	実施
						2 縄文関連商品開発支援事業(新商品開発支援)	実施
	2	縄文関連商品の開発	縄文関連商品開発件数(件)	0	2	3	
					2	4	
	3					5	
						6	
	基本政策間連携						

施策の柱 3	名称	健康・福祉分野における文化芸術の活用		主管課	中央公民館・健康づくり推進課 高齢者保険課		
	詳細	福祉施設・医療機関と連携した鑑賞事業や健康づくりと史跡めぐりのコラボレーション等、従来からある事業に文化芸術の視点を加えあらたな活用を図ります。					
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
	1	高齢者大学参加者数	参加者数(中央公民館と地区学部の参加者数 定員150+60)	210	210	1 高齢者大学事業	実施
					210	2 高齢者作品展(老人いきがい対策事業の内)	実施
	2					3 運動習慣づくり事業	実施
						4	
	3					5	
						6	
	基本政策間連携						

施策等名称	文化芸術を活用したまちづくり	体系番号	0201020304
		主管課	生涯学習課

2 指標等の推移と変動要因

体系区分	成果指標名	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
指標No.		中間目標値	実績値 / 達成率(実績値÷目標値)				
施策	尖石縄文考古館来館者数	53,824	56,953	54,434	26,366	32,442	54,030
1		60,000	94.92	90.72	43.94	54.07	90.05
変動要因等	2018年度	平成29年度はハケ岳JOMONライフフェスティバル期間中無料入館の影響で増加したが、平成31年度は無料入館なしのため減少となった。					
	2019年度	台風19号が直撃した10月の入館者数が前年度に比べ低下したため。					
	2020年度	新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う約2か月間の休館等により入館者数は大幅に減少した。					
	2021年度	新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う約1か月間の休館等により入館者数は微増にとどまった。					
	2022年度	通年開館し、前年に比べて新型コロナウイルスの影響が少なく、入館者数は大幅に増加した。					
施策	「茅野ブランドの創出」の取組に対する市民満足度	20.00	22.40	-	-	-	-
2		25.00	89.60	-	-	-	-
変動要因等	2018年度	市民アンケートによる満足度。2.4%増。					
	2019年度	市民アンケートの内容精査により項目がなくなったため今年度から施策から除外する。					
	2020年度	除外					
	2021年度	除外					
	2022年度	除外					
柱1	尖石縄文まつり入場者数	4,000	4,240	3,411	-	-	-
1		4,000	106.00	85.28	-	-	-
変動要因等	2018年度	縄文まつりの案内配布を予定通り実施できたこともあり、入場者数が目標値を上回った。					
	2019年度	台風19号が直撃した10月の入館者数が前年度に比べ低下したため。					
	2020年度	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催を中止した。					
	2021年度	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催を中止した。					
	2022年度	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催を中止した。					
柱1	ハケ岳JOMONライフフェスティバル来場者数(3年毎)	29,425	-	-	-	-	-
2		32,000	-	-	-	-	-
変動要因等	2018年度	3年毎の実施。次回は2020年度(令和2年度)の開催。					
	2019年度	3年毎の実施。次回は2020年度(令和2年度)の開催。					
	2020年度	新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。又今後の実施も中止となった。					
	2021年度	除外					
	2022年度	除外					
柱2	地域資源を活用した旅行商品の開発	0	19	25	30	35	41
1		50	38.00	50.00	60.00	70.00	82.00
変動要因等	2018年度	地方創生推進交付金事業の計画どおりの実施と地域おこし協力隊員の地域に根差した活動により商品造成が進展。					
	2019年度	茅野市オリジナル商品の達成が進んだ。					
	2020年度	茅野市オリジナル商品の達成が進んだ。(2019年中に造成した商品9件、本年度造成した商品21件)					
	2021年度	茅野市オリジナル商品の達成が進んだ。(2020年度までに造成した商品30件、本年度造成した商品5件)					
	2022年度	茅野市オリジナル商品の達成が進んだ。(2021年度までに造成した商品35件、本年度造成した商品6件)					
柱2	縄文関連商品の開発	0	1	0	0	1	0
2		2	50.00	0.00	0.00	50.00	0.00
変動要因等	2018年度	1件開発。					
	2019年度	新商品開発等は容易ではなくリスクもあり、開発は年によって差が生じる。					
	2020年度	新商品開発等は容易ではなくリスクもあり、開発は年によって差が生じる。					
	2021年度	1件開発。					
	2022年度	新商品開発等は容易ではなくリスクもあり、開発は年によって差が生じる。					

施策等名称	文化芸術を活用したまちづくり	体系番号	0201020304
		所管課	生涯学習課

No.	成果指標名	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
		中間目標値	実績値 / 達成率(実績値÷目標値)				
柱3 1	高齢者大学参加者数	210	215	165	-	98	112
		210	102.38	78.57	-	46.67	53.33
変動要因等	2018年度	本学(中央公民館実施)145人、3地区学部70人(泉野20人・北山31人・湖東19人)計215人が参加。					
	2019年度	本学(中央公民館実施)121人、2地区学部44人(北山・湖東)計165人が参加。本学は1年次から2年次にあがる際の減少率が高い。また、地区学部の開催場所が1減となり参加者数に影響した。					
	2020年度	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。					
	2021年度	本学(中央公民館実施)69人、冬の講座(旧地区学部)29人計98人が参加。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から定員を半数にして実施した。					
	2022年度	本学(中央公民館実施)68人、冬の講座(旧地区学部)44人計112人が参加。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から定員を70名にして実施した。					

施策等名称	文化芸術を活用したまちづくり	体系番号	0201020304	
		主管課	生涯学習課	

3 評価・改革改善

(単位:円)

項目		2018年 (前年度比)	2019年 (前年度比)	2020年 (前年度比)	2021年 (前年度比)	2022年 (前年度比)
投資額	事業費(円)	125,484,015	161,794,039	38,706,032	27,178,816	39,987,124
	うち一財(円)	107,271,938	130,848,552	35,106,032	21,316,916	18,181,124
	増減理由 (一般財源前年度比±10%以上の場合に記載)		観光まちづくり推進事業のうち、地方創生推進交付金を活用した古民家再生事業の完了により補助金が増額となったため。	第1回縄文ライフフェスティバルの開催中止に伴う減額。	コロナ感染症拡大防止対策として各種事業の中止や縮小に伴う減額。	事業内容の変更等による減額。
進捗評価		おおむね順調	おおむね順調	やや遅れている	やや遅れている	おおむね順調
総合評価	主な取組内容や成果	縄文まつりの来場者は市外、県外からも増えており、茅野市の縄文文化の重要性を知ってもらう大きな機会となっている。また、長野・山梨の関係14市町村で構成した縄文文化圏が日本遺産に認定され、縄文を発信する機運が高まった。	天候(台風)や疫病の発生により各種事業に影響があったが、おおむね計画した事業は実施され、縄文を生かしたまちづくりは行われた。日本遺産とタイアップした周知活動や認知度向上のための施策を行い誘客につなげることができた。	コロナ感染症の影響により計画した事業の実施はできなかった。地域資源を活用した旅行商品の開発は引き続き行うことはできた。	既存事業の見直しや新規事業の構想、立案を行いコロナ感染症収束後を見据えた活動を行うことができた。反面、集客につながるイベントなどの実施はできなかった。地域資源を活用した旅行商品の開発は引き続き行うことはできた。	(R4評価)縄文プロジェクト見直しに伴い縄文まつりが中止となったが、考古館事業や日本遺産の展示を充実し縄文をいかしたまちづくりを広く発信。地域資源を活用した旅行商品は、体験プログラム3件、ツアー3件を開発。(総括評価)学術的な縄文関連事業を核とする方向性になったが、今後も縄文をいかしたまちづくりを進める。
	課題	「まちづくりに縄文文化や国宝などの文化遺産が活用されている」と思う市民の割合は65%前後で横ばい。多くの市民が取組への興味や関心を持ってもらえるような展開が必要である。また、地域の伝統文化を活用した滞在交流プログラムも開発されたが、利用者数は伸びていない。	伝統的な祭りや文化財・芸術作品の展示、映画祭、アートプロジェクト、イベント等といった地域の文化資源や文化芸術活動を産業・観光・福祉などの分野で活用し、多くの市民が取組への興味や関心を持ってもらえるような展開が必要である。	伝統的な祭りや文化財・芸術作品の展示、映画祭、アートプロジェクト、イベント等といった地域の文化資源や文化芸術活動を産業・観光・福祉などの分野で活用し、多くの市民が取組への興味や関心を持ってもらえるような展開が必要である。	縄文プロジェクトは特定の分野に限らず、複数の分野にまたがる事業展開に取り組んできたが、位置付け及び方向性について、アフターコロナを見据えて原点に振り返り整理する必要がある。	
改革・改善	改革・改善内容	第1回八ヶ岳JOMONライフフェスティバルに向けた体制づくりを行い、広く市民が参加できるような企画の構築を図る。	第1回八ヶ岳JOMONライフフェスティバルに向けた体制づくりを行い、広く市民が参加できるような企画の構築を図る。	これまで第1回八ヶ岳JOMONライフフェスティバル開催に向け企画してきたが中止となり、今後は「縄文」の価値を考古学の世界だけにとどめず、私たちの生活の中で普遍性を持たせることによりまちづくりに活かしていく。	「縄文」の認知を進めるにあたり、イベント中心に展開してきたが、今後は「縄文」の価値を考古学の世界だけにとどめず、私たちの生活の中で普遍性を持たせることによりまちづくりに活かしていく。	(R4・総括評価共通)学術的な縄文関連事業を核に、産業・観光等の分野と連携した取組を継続実施することで、縄文をいかしたまちづくりを進めたい。
	施策の柱等の重点化	重点化する施策の柱	1	1	2	2
		重点事務事業	2	2	1	1
理由	茅野市の宝である「縄文」をシティプロモーションの重要なコンテンツと位置づけていることから、第1回八ヶ岳JOMONライフフェスティバルの開催により、魅力を広く発信し、知名度の向上を図ることが重要である。	茅野市の宝である「縄文」をシティプロモーションの重要なコンテンツと位置づけていることから、第1回八ヶ岳JOMONライフフェスティバルの開催により、魅力を広く発信し、知名度の向上を図ることが重要である。	「縄文」を活かしたまちづくりを進めるには、地域の歴史的魅力や特色を積極的に発信するとともに、関係団体との連携を図り、まちの賑わい創出や地域活性化に取り組んでいく必要がある。	「縄文」を活かしたまちづくりを進めるには、地域の歴史的魅力や特色を積極的に発信するとともに、関係団体との連携を図り、まちの賑わい創出や地域活性化に取り組んでいく必要がある。	「縄文」を活かしたまちづくりを進めるには、地域の歴史的魅力や特色を積極的に発信するとともに、関係団体との連携を図り、まちの賑わい創出や地域活性化に取り組んでいく必要がある。	